

漢訳イソップにおける方言訳に関する研究

——福建方言訳を中心に——

陳 旭

A Study on Dialect Translation in Chinese Translation of Aesop's Fables —Focusing on Fujian Dialect Translation

CHEN Xu

The translations of dialects edited by Western missionaries include Fujian dialect translation, Shanghai dialect translation, and Cantonese dialect translation. Among them, the quantity and the quality of Fujian dialect translations are more and more distinctive. At that time, the missionaries used Latin as the basis to create a new phonetic language which is called BaiHuaZi, also known as the Roman word. They are using this emerging text to translate Aesop's fables into dialect versions.

This paper attempts to use the dialect dictionary compiled by the 19th century missionaries to interpret the contents of the above dialect versions, and tries to translate them back into Chinese characters, from the aspects of content, language, publishing, communication, and influence of works. On this basis, we also try to compare the translations of various dialects and other Chinese translations of Aesop's fables.

As an indispensable part of Chinese translation of Aesop's fables, the translation of dialects has a great significance not only to the study of Aesop's fables, but also to the evolution of dialects.

Keyword: Chinese translation of Aesop's fables, Fujian Area, Dialect translation, BaiHuaZi, Missionary

キーワード：漢訳イソップ、福建地域、方言訳、白話字、宣教師

はじめに

1842年、アヘン戦争を終結させるため、清政府は英国との間に「南京条約」を締結し、広州、厦門、福州、寧波、上海という5港を貿易港として開港させ、英領事館の設立及び、イギリス人が5港の定められた地域の中で、家または土地を租借し居住することが認められた。このような開国の中で、キリスト教の宣教師たちは積極的に中国に宣教するようになった。さらに、キリスト教を普及させるために、

聖書をはじめ、キリスト教の関連作品を次々と中国に導入した。一方、方言訳という地方の人も読めるような訳本にとどまらず、外国人宣教師向けの中国語および方言の教科書を編集することにも相当工夫を施した。イソップ寓話はその一つとして、方言に翻訳された。

現時点では漢訳イソップにおける福建方言訳の出版物としては、以下三つが見られる。

1. 『Esop's Fables; as translated into Chinese by R. Thom Esqr. Rendered into colloquial of the dialects spoken in the department of Chiang-chiu, in the province of Hok-kien; and in the department of Tie-chiu, in the province of Canton by S. Dyer and J. Stronach』¹⁾ (1843 東洋文庫 P-III-a-1267)
2. 『Aesop's Fables in the Amoy vernacular』. (1885, 香港大学図書館蔵)
3. 『long-sim Ju-Gian』 (養心諭言). (1893, 所在不明)

これまで、漢訳イソップについての研究は盛んに行われてきたが、方言訳の研究は依然として限られている。その難点としては、まず、19世紀の時点で、方言がまだ統一されていなかったことがあげられる。当時、宣教師は数多くの方言辞書を編纂したが、編集方法や文字の標記方法がそれぞれ異なっている。言い換えれば、これらの方言訳の内容を正しく読み取るには、適応する方言辞書を見つけることが必要である。しかし、作者不明の場合は、それに適用する方言の辞書を見つけるのは非常に難しい。一方、当時、宣教師が編集した辞書は英語とローマ字で表記されているものが多かったが、それに対応する漢字は書かれていないので、その漢字を見つけることも困難である。また、方言の語彙には、対応する漢字がない場合も多いので、方言訳そのものの研究及び他の漢訳イソップとの比較研究は容易なことではない。

本稿では、19世紀宣教師が編集した方言辞書を利用し、上記の福建方言訳本の内容を解釈した上で、比較研究を目指している。

一 福建方言訳の先駆者：『Esop's Fables ; Hok-Kien』

方言訳の中、最初に登場したのは『Esop's Fables ; Hok-Kien』である。

この本は1843年にシンガポールで出版されたもので、その扉には「Esop's Fables; as translated into Chinese by R. Thom Esqr. Rendered into colloquial of the dialects spoken in the department of Chiang-chiu, in the province of Hok-kien; and in the department of Tie-chiu, in the province of Canton by S. Dyer and J. Stronach」とある。

扉の表記が示しているように、これは宣教師サミュエル・ダイアとジョン・ストロナックがロバート・トームの『意拾諭言』を底本として福建方言と広東方言に翻訳された合作である。すなわち、この本は二部に分かれており、最初の部分は福建方言で、第二部は広東方言である。福建方言の部分は八つ折判の大きさで、英文のPreface (2ページ)、Errata (1ページ)

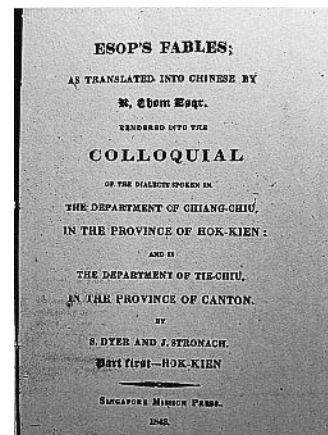


図 1

1) 以下『Esop's Fables ; Hok-Kien』と略称する。

ジ)、そして本文(40ページ)という構成である。

本節では、当時の宣教師が編集した福建省の方言辞書を参考し、ローマ字(白話字²⁾)で表記されたイソップを漢字に変換したうえで内容を調べることにする。19世紀、宣教師が編集した福建の方言辞書というと、『厦英大辞書』、『漳州方言語彙』、『E MNG IM E Ji-Tián』(『厦門音の辞典』)など数多くの辞書があるが、その中では、サミュエル・ダイア(Samuel Dyer)自身が編集した『A Vocabulary of the Hok-Keen Dialect as Spoken in the county of Tsheang-Tshew』(『漳州方言語彙』)が最も参照と利用に値すると考える。

この辞書は1838年、サミュエル・ダイアがマレーシアのペナン、マラッカで集めた1800あまりの福建方言(漳州地区)の語彙を整理し、編集された辞書である。合計132ページで、序論、本文、索引という三つの部分からなっている。ローマ字で表記された英語と福建方言の辞書である。

この辞書を参考し、この本の目次を整理すると次のようになる。

表1

Esop's Fables : Hok-Kien		意拾喻言
原文	漢訳文	原文
<i>Ch'ai t'ün-chiá^h Yió^{ng}</i>	1. 豺吞吃羊	1. 豺烹羊
<i>Ké=káng tit-tiò^h Chín-chú</i>	2. 雞公得著珍珠	2. 雞公珍珠
<i>Sai káp Him siò-che^{ng} chiá^h</i>	3. 獅合(和)熊相爭吃	3. 獅熊爭食
<i>Gò sē^{ng} Kim-nui^{ng}</i>	4. 鵝生金卵	4. 鵝生金蛋
<i>Káu k'w^{ng} á í-é yí^{ng} á</i>	5. 狗追它的影	5. 犬影
<i>Sai káp Lí chò=hòé p'á^h=lá^h</i>	6. 獅合驢作夥打獵	6. 獅驢同獵
<i>Ch'ai kiú Pe^h-hò^h</i>	7. 豺求白鶴	7. 豺求白鶴
<i>N^{ng}-chiá^h Niáu=ch'i</i>	8. 兩隻老鼠	8. 二鼠
<i>Chò=ch'án-láng kiú Chwá</i>	9. 作田人救蛇	9. 農夫救蛇
<i>Sai káp Lí chéng=k'i</i>	10. 獅合(和)驢爭氣	10. 獅驢爭氣
<i>Sai káp Lí Báng pí bú-gé</i>	11. 獅合(和)蚊比武藝	11. 獅蚊比藝
<i>Long pí Káu p'ién</i>	12. 狼被狗騙	12. 狼受犬騙
<i>Lí ch'èng Sái-é p'òé</i>	13. 驢穿獅的皮	13. 驢穿獅皮
<i>Lò=á chá^h ke-mó^{ng}</i>	14. 烏鴉插假毛	14. 鴉插假毛
<i>Eng káp Kú</i>	15. 鷹合(和)龜	15. 鷹龜
<i>Kú káp T'óu</i>	16. 龜合(和)兔	16. 龜兔
<i>N^{ng}-chiá^h Ké siò-p'á^h</i>	17. 兩隻雞相拍	17. 雞鬪
<i>O'ù pe^h Káu-Bò</i>	18. 黑白狗母	18. 黑白狗雌
<i>Lái=bá ki me^{ng} Pú=tò</i>	19. 狸貓指罵葡萄	19. 狐指罵葡提
<i>Sé-ki^{ng} á p'á^h Káp=á</i>	20. 細团打蛤	20. 孩子打蛤
<i>Káp=pò Sui=gú</i>	21. 蛤母水牛	21. 蛤雌水牛
<i>Eng Niáu Tí chò-hòé twá</i>	22. 鷹貓豬作夥 ³⁾	22. 鷹貓豬同居
<i>Be sióng pò Lok-é kiú⁴⁾ siú</i>	23. 馬想報鹿的 ⁴⁾ 仇	23. 馬思報鹿仇

2) ラテン文字で表記される福建、台湾地区の方言。

3) 当時の福建漳州方言。動詞、住むという意味である。漢字不明。

4) 当時の福建漳州方言。形容詞、漢字不明。

<i>P'áng=ch'í téng Láng=him</i>	24. 蜂刺針人熊	22. 蜂針人熊
<i>P'á^h=lá^h-é láng jék T'òu</i>	25. 打獵的人 <i>jék</i> ⁵⁾ 兔	25. 獵戶逐兔
<i>K'á Ch'úu hwán-pwán</i>	26. 骹 (脚) 手反叛	26. 四肢反叛
<i>Lò=á Káp Lái=bá</i>	27. 烏鴉和狸貓	27. 鴉狐
<i>Chái=hong káp Pí^{ng}=láng-é láng</i>	28. 裁縫和騙人的人	28. 裁縫戲法
<i>Sé-póu, Ní^{ng}-póu siò-kong</i>	29. 洗布染布相講	29. 洗染布各業
<i>Hwui-k'ng T'í^h-k'ng chò=hòe kí^{ng}á</i>	30. <i>Hwui</i> ⁶⁾ 缸鐵缸作夥行	30. 瓦鐵缸同行
<i>Lái=bá káp Sw^{ng}á=yiò^{ng}</i>	31a 狸貓和山羊	31. 狐與山羊
<i>Gú káp Káu chò=pú twá</i>	31b 牛和狗作夥 <i>twá</i> ⁷⁾	31.. 牛狗同羣
<i>Chit-bák-lok sit ké=chék</i>	32. 一目鹿失計策	32. 眇鹿失策
<i>Gái-láng kiú ching</i>	33. 呆人求錢	33. 愚夫求財
<i>Láu-láng siò^{ng}=lo^h=ké sí</i>	34. 老人想 <i>lo^h=ké</i> ⁸⁾ 死	34. 老人悔死
<i>Ché=kok-é láng, Bòu káp Sé í</i>	35. 齊國的人, 婦和細姨	35. 齊人妻妾
<i>Gán káp, Hò^h chò=pú tiò^h-báng</i>	36. 雁和鶴作夥著網	36. 雁鶴同網
<i>Lò=á ái ó^h Eng-é k'wui=lát</i>	37. 烏鴉愛學鷹的氣力	37. 鴉效鷹能
<i>Sok-ch'á p'í=jí</i>	38. 束柴比喻	38. 束木譬喻
<i>Twá-sw^{ng}á ú sin=in</i>	39. 大山有身孕	39. 大山懷孕
<i>P'á^h=lá^h-é láng me^{ng} káu</i>	40. 打獵的人罵狗	40. 獵主責犬
<i>Siò-t'ai-é Be, K'í=hú Lí</i>	41. 相刖的馬欺負驢	41. 戰馬欺驢
<i>Lok-é yí^{ng}á chiò-chui</i>	42. 鹿的影照水	42. 鹿照水
<i>Ké pú Chwá-nui^{ng}</i>	43. 雞搶蛇蛋	43. 雞搶蛇蛋
<i>P'á^h-k'ou-é láng pién-lùn</i>	44. 打鼓的人辯論	44. 鼓手辯理
<i>Lí tóu káu=á ték-t'iong</i>	45. 驢妒狗的寵	45. 驢犬妒寵
<i>Niáu=ch'í pò in</i>	46. 老鼠報恩	46. 報恩鼠
<i>Káp=á kiú Pák=té=yiá</i>	47. 蛤求北的帝	47. 蛤求北帝
<i>Tok-chwá ká Kí=lé</i>	48. 毒蛇咬 <i>Kí=lé</i> ⁹⁾	48. 毒蛇咬銼
<i>Yiò^{ng} káp, Lòng kiét-béng</i>	49. 羊和狼結盟	49. 羊與狼盟
<i>Pú=t'áu kiú Pe^{ng}</i>	50. 斧頭求柄	60. 斧頭求柄
<i>Lok kòu=chi^{ng}á Gú kiú í</i>	51. 鹿懇請牛救它	51. 鹿求牛救
<i>Lok jip sai-é k'áng</i>	52. 鹿入獅的孔	52. 鹿入獅穴
<i>Jit káp Hong siò-sú</i>	53. 日和風相輸	53. 日風相賭
<i>Chò^h-ch'án-láng ká kí^{ng}á</i>	54. 作田人教訓	54. 農夫遺訓
<i>Hòu káp, Hò^h siò-káu=kwán</i>	55. 狐和鶴相交	55. 狐鶴相交
<i>Sái-ch'ia-é láng kiú Hwüt</i>	56. 駛車的人求佛	56. 車夫求佛
<i>Gí-káu bui Ch'át</i>	57. 義狗吠賊	57. 義犬吠盜
<i>Chiáu=á sit-góu k'ò Hí</i>	58. 鳥失誤解靠魚	58. 鳥悞靠魚
<i>Lí káp Be siò-táng kí^{ng}á-lòu</i>	59. 驢和馬相同行路	59. 驢馬同途
<i>Lí "m-chú-liáng</i>	60. 驢不自量	60. 驢不自量

5) 当時の福建漳州方言。動詞、追うという意味である。漢字不明。

6) 当時の福建漳州方言。名詞、瓦という意味で、漢字不明。

7) 同3)。

8) 当時の福建漳州方言。後悔という意味で、漢字不明。

9) 当時の福建漳州方言。名詞、鑿という意味で、漢字不明。

<i>Sùn=káu, Yíá=long</i>	61. 馴狗野狼	61. 馴犬野狼
<i>Long-é ké-chék, yiong-bé kí^{ng}á</i>	62. 狼の計策用不行	62. 狼計不行
<i>Long twán Yiō^{ng}-e án</i>	63. 狼斷羊的案	63. 狼斷羊案
<i>Gái-láng gái-siō^h</i>	64. 癡人癡想	64. 愚夫癡愛
<i>ké-káng káp, Che^h=kòu chò=pú chiá^h</i>	65. 雞公和鷓鴣作夥食	65. 雞鷓同飼
<i>Hong-ch'iong kí^{ng}á ká=tí hái</i>	66. 放縱回家己害	66. 縱子自害
<i>Chéng=t'áu=á lóu=hien kán=che-é sú</i>	67. 指頭露現奸詐的事	67. 指頭露奸
<i>O'ù=á k'í=hú Yiō^{ng} sien</i>	68. 烏鴉欺負羊善	68. 鴉欺羊善
<i>Giup-chú t'ám-sim</i>	69. 業主貪心	69. 業主貪心
<i>Sám-ch'íú, Lóu=tiá^h=á, ú-é nge^{ng}, ù-é nuí^{ng}</i>	70. 杉樹, 蘆條兒, 有個剛有個柔	70. 杉葦剛柔
<i>Hong-tong-é wá pí pák</i>	71. 荒唐的話被駁	71. 荒唐受駁
<i>I=síp k'wán-sí</i>	72. 意拾勸世	72. 意拾勸世
<i>Yíá=tí ká=tí pò=hóu</i>	73. 野豬家己保護	73. 野豬自護
<i>Káu chò kwán, Hóu lí chò sin</i>	74. 狗做君狐狸做臣	74. 猴君狐臣
<i>ch'í-gú gin=^{ng}á kog pè^h=ch'át</i>	75. 飼牛 gin= ^{ng} á ¹⁰⁾ 講白 ch' át ¹¹⁾	75. 牧童說謊
<i>Láng káp Sái gí=lùn to=lí</i>	76. 人合獅議論道理	76. 人獅議理
<i>Níáu=ch'í kwán=hong Níáu lái hái í</i>	77. 老鼠 kwán ¹²⁾ 防貓來害它	77. 鼠妨貓害
<i>K'wngá=míngá-é láng gòu ká=ti</i>	78. 看命的人誤家己	78. 星者自悞
<i>Ch'íú-hí Lóu=hí chò=pú sí</i>	79. 鯪魚鱸魚作夥死	79. 鯪鱸皆亡
<i>Láu-mung=hé ká k'ingá</i>	80. 老 mung=hé ¹³⁾ 教子	80. 老嚙訓子
<i>Chin-sin k'w^{ng}á=kí^{ng} ch'íáng</i>	81. 真神看見像	81. 真神見像

このように、この訳本はロバート・トームの『意拾諭言』を手本として訳されたもので、目次の構成はそれと大分一致している。通し番号も、『意拾諭言』と同じように、31番が重複しているので、81番までであるが、実際は82話である。ただし、この本は重複した31番を31a、31bと表記している。そのほか、『意拾諭言』が24番を22番、50番を60番と書き間違っているが、この本では書き直されている。『意拾諭言』と比べれば、目次の構成がほとんど一致しているものの、翻訳方法や方言表現によって相違している点もあるので、全81話のタイトルを以下4種類に分類してみた。

①直訳表現

7話の「豺求白鶴」、18話の「黑白狗母」、21話の「蛤母水牛」、38話の「束柴比喻」、43話の「雞搶蛇蛋」、50話の「斧頭求柄」、60話の「驢不自量」、69話の「業主貪心」、72話の「意拾勸世」のような『意拾諭言』のタイトルとは全く一致しているタイトルである。即ち、方言表現と原文表現が一致し、直訳ができるパターンである。

②方言表現

そもそも方言と標準語或いは各方言との間はお互いに多少の違いがあることが言うまでもないであ

10) 当時の福建漳州方言。名詞、子供という意味で、漢字不明。

11) 当時の福建漳州方言。名詞、嘘という意味で、漢字不明。

12) 当時の福建漳州方言。漢字不明。

13) 当時の福建漳州方言。名詞、蟹の一種、漢字不明。

ろう。

まず、名詞の違いを見てみよう。例えば第4話の「金蛋」に対し、「金卵」という。他に、「狗」に対し「犬」、「農夫」に対し「作田人」、「孩子」に対し「細囡」などの例がある。そして、動詞の場合は、「争食」に対し「相争吃」、「鬪」に対し「相拍」、「責」に対し「罵」などの例が挙げられる。

③改作表現

タイトルの意味が多少変わったところが見られる。例えば、第1話「豺烹羊」が「豺吞吃羊」に変わった。「烹」と「吞吃」は違う行為である。第54話の「農夫遺訓」が「作田人教囡」に変わった。そして、第80話の「老嚙訓子」が「老 menghe¹⁴⁾ 教子」に変わっている。

④話し言葉の傾向

実際、ここでの「話し言葉の傾向」も方言表現によるものである。そもそも方言とは人々の日常生活で使われる素朴な言語であるため、わかりやすい話し言葉が多いはずである。それに対し、『意拾喩言』の方は書き言葉、「文言」（文言白話混交体¹⁵⁾）のような簡潔な表現が特徴である。

次に、内容から言うと、この本はあくまで『意拾喩言』の方言訳本であるため、原本と一致させようとするのは当然のことであるが、やはり独自の特徴が見られる。その特徴をまとめてみると以下の3点になる。

①内容の添削

第12話を例として見てみよう。

Fable 12th Long pí káu p' ien

Lò hú swnga-k' á,ú chit-é biò,chit-chiáh káu=á,chiú tí muing -gwá.¹⁶⁾

12狼被狗騙

(羅浮山下，有一個廟，一隻狗囡住在門外。後略……)¹⁷⁾

12狼受犬騙

羅浮山下蘭若幽棲，小犬守於門外。後略……¹⁸⁾

このような内容の添削の例は7話の「豺求白鶴」、17話の「兩隻雞相拍」（雞鬪）などにもある。

②擬人法の強化

イソップとは擬人化された寓話とよく言われるが、山や動物などあらゆるものが人間と同じように会話したりしている。一方、この方言訳はさらに人間性を与えている。例えば、第3話の「獅合熊相争吃」（「獅熊争食」）

では、獅子と熊を直接に「兩人」（二人）と表現した。『意拾喩言』の方は「二獸」としている。

14) 同上

15) 内田慶市『漢訳イソップ集』（ユニウス、2014年）20頁

16) 『Esop's Fables: Hok-Kien』（1843 東洋文庫 P-III-a-1267）6頁

17) 『漳州方言語彙』に基づいて漢訳した対訳文である。

18) 羅伯聃『意拾喩言』1840年 12頁-13頁

③翻訳法の変化

この訳本が宣教師サミュエル・ダイアとジョン・ストロナックによる合作であることは明らかにしたが、81話の中、ダイアが訳した部分とジョン・ストロナックが訳した部分は明確ではない。そして、二人による訳文の特徴や翻訳方法との比較してみるのも意味のある課題である。

まず、二人のご担当した部分について検討してみる。

実はこの方言訳本の前半と後半では、表2、表3、表4のようにいくつかの名詞の言い方や表記方法が少し変わっていることが気づく。

表2

	3話	19話	27話	31話	55話	74話	『漳州方言語彙』
狐狸		「Lái=bá」狸猫			「Hóu li」狐狸		「Lái=bá」狸猫

表3

	14話	27話	37話	68話	『漳州方言語彙』
烏鴉		Lò=á		O'ù=á	O'ù=á

表4

	9話	54話	『漳州方言語彙』
作田人	Chò=ch'án-láng	Chòh-ch'án-láng	Chòh-ch'án-láng

「狐狸」という言葉が最初に出てくるのは第3話の「獅合熊相爭吃」（「獅熊爭食」）であるが、「Lái=bá」と表記された。「Lái=bá」の漢字は「狸猫」で、当時の福建方言では、狐という意味である。続いて、第19話の「狸猫指罵葡萄」（「狐指罵葡提」）でも「Lái=bá」と表記される。また第27話の「烏鴉和狸猫」（「鴉狐」）、第31話の「狸猫和山羊」も「Lái=bá」と表記される。

しかし、第55話の「狐和鶴相交往」（狐鶴相交）になると、「Lái=bá」で表記するのではなく、「Hóu」と表記している。さらに、第74話の「狗做君狐狸做臣」（「猴君狐臣」）になると、「Hóu li」と表記している。つまり、第55話を皮切りに、「狐狸」という言い方は「狸猫」から、「狐狸」と変わっているのである。

これと同じように、「烏鴉」という言葉が最初に出てくるのは第14話の「烏鴉插假毛」（「鴉插假毛」）で、「Lò=á」と表記されており、第27話の「烏鴉和狸猫」（鴉狐）、第37話の「烏鴉愛學鷹的氣力」（鴉效鷹能）も同じである。しかし、第68話の「烏鴉欺負羊善」（鴉欺羊善）になると、「O'ù=á」と表記されている。

また、「作田人」という言葉も最初に第9話で「Chò=ch'án-láng」と表記されているが、第54話では「Chòh-ch'án-láng」と表記されている。

以上述べたように、いくつかの名詞の言い方や表記方法に少し変更しているのは確かである。一年あまり（1842-1843）で完成した翻訳作品にこのような変化が起こるのは不思議なことで、それは二人による表現の違いの可能性が高い。

それでは、どちらがサミュエル・ダイアの表現で、どちらがジョン・ストロナックの表現の答えは、

サミュエル・ダイアが編集した『A Vocabulary of the Hok-Keen Dialect as Spoken in the county of Tsheang-Tshew』（『漳州方言語彙』）に秘められている。つまり、サミュエル・ダイアが編集した辞書から本人の表現を確認できるのである。

『A Vocabulary of the Hok-Keen Dialect as Spoken in the county of Tsheang-Tshew』（『漳州方言語彙』）を引くと、「狐狸」を「Lái=bá」（「狸猫」）と表記している。「烏鴉」を「O'ù=á」と表記し、「作田人」を「Chòh-ch'án-láng」と表記している。また、「作夥」を「chò=pú」ではなく、「chò=hòé」と表記している。

そうすると、「狐狸」を「Lái=bá」と表記する第3話、第19話、第27話、第31話、また「烏鴉」を「O'ù=á」と表記する第68話、「作田人」を「Chòh-ch'án-láng」と表記する第54話はサミュエル・ダイアによる翻訳の可能性が高いと考えられる。

以上述べたように、この訳本はイソップ寓話の漢訳史における重要な試みであり、後の方言訳に参考になったものと考えられる。これを皮切りに、イソップ寓話が地方に広がり、中国での伝播がいつそう広がったと思う。

このほか、方言訳は外国人宣教師向けの方言教科書として、宣教師たちの方言学習に役に立っているため、キリスト教の福建地域における発展を促進することにも大きな役割を果たしたと思う。それとともに、人々の識字率や西洋文学の一角であるイソップ寓話に対する認識もより明確化したに違いない。

二 福建方言訳の継承者：『Aesop's Fables in the Amoy vernacular』

この本は1885年にシンガポールで出版されたもので、その扉には「Esop's Fables in the Emol vernacular printed at the Singapore press」とある。扉の文字が示唆しているように、これはイソップ寓話を廈門方言に翻訳された訳本である。即ち、サミュエル・ダイアとジョン・ストロナックがイソップを福建方言に翻訳された42年後、新しい方言訳本がようやく登場したことになる。

現在香港大学図書館が所蔵しているこの本は八つ折判の大きさで、扉（1ページ）と本文（20ページ）という構成である。第1話の通し番号が省略され、計20話がある。この本に収録されているイソップ寓話の数は限られているが、いくつかの特徴が見られる。まず、この本は出版の時間と場所がはっきりしているが、誰が訳したのか、その訳者だけは明記されていない。また、内容からいって、毎話の下の方には、一部の方言（単語）の英語解釈が付いている。それは他の方言訳本に見られない特徴である。また、イソップ寓話の終わりに、総括的な訓言があることはよく知られているが、この本では、まず訓言をそのまま直訳してから、方言で説明する形になっている。

そのほか、この本は福建方言で翻訳された二番目の訳本として、内容そのものに関わらず、ロバート・トームの『意拾諭言』とサミュエル・ダイアとジョン・ストロナック訳の『Esop's Fables; Hok-Kien』との関連も注目される。

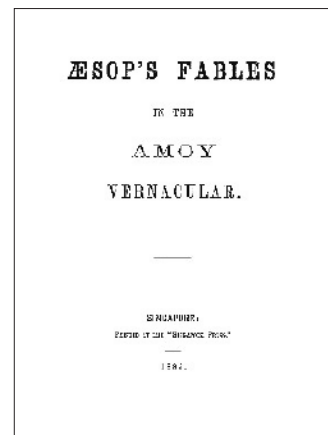


図2

本節では、当時の宣教師が編纂した厦門方言の辞書を参考にし、この本の内容を考察する。一方、19世紀、宣教師が編纂した厦門方言の辞書は多数あるが、出版時間（1885）から考えると、『厦英大辞書』（1873）、『E MNG IM E Ji-Tián』（1913）（『厦門音的辞典』）という2冊の辞書を用いるのが適切だと考える。

これらの辞書を参考にしたうえで、この本の内容を整理すると次のようになる。

表5

Aesop's Fables in the Amoy vernacular		Esop's Fables : Hok-Kien		意拾喩言
原文	漢訳文	原文	漢訳文	原文
<i>Chhai-long be^h chia^h iuⁿ</i>	豺狼想吃羊	<i>Ch'ai t'ün-chia^h Yió^{ng}</i>	1. 豺吞吃羊	1. 豺烹羊
<i>Koe-kang kap Chin chu</i>	2. 雞公合（和）珍珠	<i>Ké=káng tit-tiò^h Chìn-chú</i>	2. 雞公得著珍珠	2. 雞公珍珠
<i>Sai him chiⁿ-chia^h</i>	3. 獅熊爭吃	<i>Sai káp Him siò-che^{ng} chia^h</i>	3. 獅合（和）熊相爭吃	3. 獅熊爭食
<i>Go siⁿ Kim nng</i>	4. 鵝生金卵	<i>Gò se^{ng} Kim-nu^{ng}</i>	4. 鵝生金卵	4. 鵝生金蛋
<i>Kau e iaⁿ</i>	5. 狗的影	<i>Káu k'w^{ng} á i-é yí^{ng} á</i>	5. 狗追它的影	5. 犬影
<i>Sai, lu, choe pu phah lah</i>	6. 獅、驢作 ^{pu} ¹⁹⁾ 打獵	<i>Sai káp Li chò=hòé p'á^h=lá^h</i>	6. 獅合（和）驢作夥打獵	6. 獅驢同獵
<i>Chhai-long kiu peh hoh</i>	7. 豺狼求白鶴	<i>Ch'ai kiu Pe^h-hò^h</i>	7. 豺求白鶴	7. 豺求白鶴
<i>Nng chiah niau-chhu</i>	8. 兩隻老鼠	<i>N'ng-chia^h Niau=ch'i</i>	8. 兩隻老鼠	8. 二鼠
<i>Choh chhan lang kiu choa</i>	9. 作田人救蛇	<i>Chò=ch'án-láng kiu Chwá</i>	9. 作田人救蛇	9. 農夫救蛇
<i>Sai lu saⁿ chiⁿ</i>	10. 獅驢相爭	<i>Sai káp Li chéng=k'i</i>	10. 獅合（和）驢爭氣	10. 獅驢爭氣
<i>Sai káp bang-a pi bu-ge</i>	11. 獅合蚊子比武藝	<i>Sai káp Li Báng pí bú-gé</i>	11. 獅合（和）蚊比武藝	11. 獅蚊比武藝
<i>Chhai-long ho kau phian</i>	12. 豺狼被狗騙	<i>Long pí Káu p'ien</i>	12. 狼被狗騙	12. 狼受犬騙
<i>Lu chheng sai e phe</i>	13. 驢穿獅的皮	<i>Li ch'èng Sai-é p'òé</i>	13. 驢穿獅的皮	13. 驢穿獅皮
<i>O-a chhah ke mng</i>	14. 烏鴉插假毛	<i>Lò=á cha^h ke-mó^{ng}</i>	14. 烏鴉插假毛	14. 鴉插假毛
<i>Eng kap ku</i>	15. 鷹合龜	<i>Eng káp Kú</i>	15. 鷹合（和）龜	15. 鷹龜
<i>Ku kap tho</i>	16. 龜合兔	<i>Kú káp T'òu</i>	16. 龜合（和）兔	16. 龜兔
<i>Koe sio phah</i>	17. 雞相拍	<i>N'ng-chia^h Ké siò-p'á^h</i>	17. 兩隻雞相拍	17. 雞鬪
<i>O Kau bu kap peh kau bu</i>	19. 黑狗母合白狗母	<i>O'ù p^h Káu-Bò</i>	18. 黑白狗母	18. 黑白狗母
<i>Soaⁿ kau men phu-to</i>	18. Soa ⁿ kau ²⁰⁾ 罵葡萄	<i>Lái=bá ki me^{ng} Pú=tò</i>	19. 狸貓指罵葡萄	19. 狐指罵葡萄
<i>Gin-a pha^h chhan-kap-a</i>	20. 囡仔打田蛤仔	<i>Sé-ki^{ng} á p'á^h Káp=á</i>	20. 細囡打蛤	20. 孩子打蛤

目次から見ると、この本における寓話のタイトルは『意拾喩言』とほとんど一致している。ただ第18話と第19話の順序が入れ換わっている。『意拾喩言』と『Esop's Fables : Hok-Kien』では、第18話が「狐指罵葡萄」、第19話が「黑白狗母」であるが、この本では、第18話が「黒狗母合白狗母」、第19話は「Soaⁿ kau²¹⁾罵葡萄」である。他はほとんど一致している。といっても、翻訳方法や方言表現によって相違しているところもある。いまそれを全20話の寓話のタイトルに着目して、以下の3種類に分類してみた。

①方言表現

『意拾喩言』と比べると、名詞の場合は、「金蛋」に対し、「金卵」という。

他に、「狗」に対し「犬」、「農夫」に対し「作田人」、「二」に対し「兩」などの例があげられる。

19) 当時の福建厦門方言。漳州方言の「作夥」と同じ意味で、漢字不明。

20) 当時の福建厦門方言。名詞、狐を指すという意味で、漢字不明。

21) 同上

一方、『Esop Fables; Hok-Kien』と比べると、「金卵」、「狗」、「兩」、「作田人」という4つの単語の言い方は全く同じであるが、「狸猫」（狐）を「Soaⁿ kau」（Soaⁿ 狗）²²⁾、「豺」を「豺狼」、「細团」を「团仔」のような違う言い方も出てくる。

また、動詞と副詞については、例えば、『意拾喻言』における「鬪」に対し、この本と『Esop's Fables; Hok-Kien』では「相拍」という。「同」に対し、この本では「作Pu」²³⁾ というが、『Esop's Fables; Hok-Kien』では「作夥」という。また、「争食」に対し、この本では「争吃」というが、『Esop's Fables; Hok-Kien』では「相争吃」という。

②改作表現

タイトルの意味が多少変わったところが見られる。例えば、『意拾喻言』における第1話のタイトルは「豺烹羊」であるが、『Esop's Fables; Hok-Kien』では「豺吞吃羊」である。それに対し、この本では「豺狼想吃羊」をタイトルとしている。そもそも「烹」、「吞」、「吃」は違う行為であり、「想吃」は更に心理活動をつけている。しかも、時態が過去式から未来式に変わっている。次に、『意拾喻言』の第10話は「獅驢争氣」であり、『Esop's Fables; Hok-Kien』では「獅合驢争氣」である。この本では、「獅驢相争」となっている。主人公は同じ獅子とロバであるが、「相争」と「争氣」が多少違っている。その他、タイトルの添削による意味の変化もある。例えば、第19話の「狐指罵葡提」と「狸猫指罵葡萄」に対し、この本は「Soaⁿ kau²⁴⁾ 罵葡萄」となっている。「指」という動作が略しているのがある。

③話し言葉の傾向

文体から見ると、『意拾喻言』は「文言」（文言白話混交体²⁵⁾）で、簡潔な言い方や書き言葉がその特徴である。それに対し、『Esop's Fables; Hok-Kien』とこの方言訳には、日常生活で使われる素朴で、わかりやすい話し言葉が多いため、『Esop's Fables; Hok-Kien』にしても、この本にしても、『意拾喻言』より話し言葉の傾向が一目瞭然になっている。例えば、次のような例が挙げられる。『意拾喻言』の「二鼠」に対し「兩隻老鼠」、「農夫救蛇」に対し、「作田人救蛇」となっている。

更に、同じ方言訳であるこの2作の用語を比較すると表6のようになる。

表6

意拾喻言	類似性	Aesop's Fables in the Amoy vernacular	類似性	Esop's Fables; Hok-Kien
2 雞公珍珠	≈	2 雞公合珍珠	>	2 雞公得著珍珠
4 犬影	≈	4 狗的影	>	4 狗追它的影
8 二鼠	≈	8 兩隻老鼠	≈	8 兩隻老鼠
9 農夫救蛇	≈	9 作田人救蛇	≈	9 作田人救蛇
20 黑白狗嶋		20 黑狗母合白狗母	<	20 黑白狗母

22) 同上

23) 同19)

24) 同20)

25) 内田慶市『漢訳イソップ集』（ユニウス、2014年）20頁

要するに、ここの「話し言葉の傾向」を言い換えれば、「『意拾喩言』との類似性」である。つまり、『意拾喩言』に比べると、この訳の第2話と第4話のタイトルは『Esop's Fables; Hok-Kien』のタイトルより類似性が高く、第20話が低いということである。

次に、内容からこの本を解読しながら、『意拾喩言』、『Esop's Fables; Hok-Kien』と比較してみる。

『Esop's Fables; Hok-Kien』の底本は『意拾喩言』であることがはっきりしているが、内容的にはやはり多少の違いや添削がある。ところが、『Esop's Fables; Hok-Kien』に比べると、この訳本の内容は『意拾喩言』とはより一致し、改作や添削したところが少ない。つまり、『意拾喩言』との類似性が高い。

①冒頭部分の一致

『意拾喩言』の最大の特徴は原話にとらわれずに、思い切った「中国化」を試みている点にある。つまり、時間や場所の設定、モデルを「極めて中国的」に変えたのである。例えば、『意拾喩言』では、第1話「狼與羊」の冒頭部分は「盤古初，鳥獸皆能言」（盤古の天地開闢の頃、鳥獸は皆ことばをしゃべれた）であり、「兔と龜」では、「禹疏九河之時」（禹が九河を治めた時）である²⁶⁾。

一方、この本の冒頭部分が『意拾喩言』とは全く一致している。これは『意拾喩言』がこの本の底本とされる最も有力な証拠と考える。

②擬人化の撤去

『Esop's Fables; Hok-Kien』では、動物を直接的に「人」と呼ぶ擬人化の傾向があるが、この本では、擬人化が撤去され、『意拾喩言』の内容をそのまま用いる。例えば、第3話の「獅合熊相爭吃」（「獅熊爭食」）では、獅子と熊を直接に「兩人」（二人）と書き、第10話の「獅合驢爭氣」（獅驢爭氣）では「彼此爭氣」を「兩個人爭氣」というが、この本では、「兩隻動物」と「兩隻相爭」という。

③数詞の省略

『意拾喩言』とこの本では、数詞「一」を省略するが多い。それに対し、『Esop's Fables; Hok-Kien』では、数詞をつける傾向が見られる。例えば、第1話を見てみよう。

豺烹羊

盤古初，鳥獸皆能言。一日豺與羊同潤飲水。²⁷⁾

Ch'ai t'un-chiá^h Yio^{ng}

*Pwán kòu é sí chéh, k'im siú long chong é kong wá. U chit-jit, chi chiáh chái káp chit chiáh yióng chò pú tí k' é á chiáh chui.*²⁸⁾

26) 内田慶市『漢訳イソップ集』（ユニウス、2014年）19頁

27) 羅伯聃『意拾喩言』1840年 1頁

28) 『Esop's Fables; Hok-Kien』（1843 東洋文庫 P-III-a-1267）1頁

豺吞吃羊

(盤古時節，鳥獸都可講話。有一日，一隻豺和一隻羊 chò pú²⁹⁾ 在溪邊吃水。)³⁰⁾

Chhai-long be^h chia^h iuⁿ

*Phoau-kó e si khim-siù long oe kóng oe. Tu-gú chit-jit, chhai-long kap iuⁿ tang-khoe chia^h chúi.*³¹⁾

豺狼要吃羊

(盤古的時，鳥獸都會講話。適遇一日，豺狼和羊同溪吃水。)³²⁾

このことは本文のみならず、本の下にある単語リストでも見られる。

Sai,	a lion.	soa ⁿ kau,	a fox.
him,	a bear.	thoe ^h -khì,	to take away.
sa ⁿ -chi ⁿ ,	contend together.	chhut-chai i,	just as he
ióng-beng,	powerful.		pleased.
tián,	to boast.	koa ^h -pun,	to cut and di-
eng-hióng,	courage.		vide.
boe-khí,	unable to raise.	khi hu,	to insult.
tang-sióng,	severely wounded.	Bá-hiò ^h ,	a kite.
pai-pai, ohhiáng ohhiáng,	very pompously.	ô,	oyster.
bó heat i ta-oâ,	no help for it.	Tho-bái è lang,	a fisherman.
		hoan-tng,	on the contrary.

図3 (第3話の単語リスト)

図3のように、Sai (獅) を英語の「a lion」に訳し、him (熊) を「a bear」、*soaⁿ kau³³⁾* を「a fox」と解説している。つまり、本文では、数詞「一」を省略した場合がある。

④訓言の直訳

訓言のところでは、『意拾喻言』の訓言をそのまま訳した後、加訳という形で補充説明をしている。次の通りである。

表7

訓言			
番号	意拾喻言	Aesop Fables in the Amoy vernacular	
	原文	原文	漢訳文
2	俗云何以為寶，合用則貴	<i>siók-gú u kóng (ho í ui pò, hap iong chek kui)</i>	俗語有講：(何以為寶，合用則貴)
3	俗云鵝蚌相纏，漁人得利	<i>siók-gú u kóng (kut hong siong chiàn gu jin tek-li)</i>	俗語有講：(鵝蚌相纏，漁人得利)

29) 同18)。

30) 『漳州方言語彙』に基づいて訳した対訳文である。

31) 『Aesop's Fables in the Amoy vernacular』(1885, 香港大学図書館蔵) 1頁

32) 厦英大辞書』に基づいて訳した対訳文である。

33) 同20)。

4	俗云貪心不得，本利具失	<i>siók-gú u kóng (Tham-sim put tek, pún li ku sit)</i>	俗語有講：(貪心不得，本利具失)
6	俗云世事讓三分，莫道人強我弱之謂也	<i>siók-gú u kóng (Sè-su jiong sam hun bok to jin kiong;ngo jüók chi ui iá)</i>	俗語有講：(世事讓三分，莫道人強我弱之謂也)
7	俗云過橋抽板，得命思財	<i>siók-gú u kóngkò (kò-kiâu tiu pán, tek beng su chái)</i>	俗語有講：(過橋抽板，得命思財)
8	俗云寧食開眉粥莫食愁眉飯即此之謂也	<i>siók-gú u kóng (leng sit khai bi kiok, ból-sit chhiu bi hoan chek chhú chi ui iá)</i>	俗語有講：(寧食開眉粥莫食愁眉飯即此之謂也)
10	俗云大人不怪小人之謂也	<i>siók-gú u kóng (Tai jin put koài siáu jin.)</i>	俗語有講：(大人不怪小人)
12	狼悔曰十賒不如一現	<i>Chhai long hoán-hoé kong (Sip sia put ju it hian)</i>	豺狼後悔講(十賒不如一現)
15	俗云飛不高跌不傷	<i>siók-gú u kóng (Hui put ko, thiat put siong)</i>	俗語有講(飛不高跌不傷)
18	俗云皆因自己無能，反說他人無用	<i>siók-gú u kóng (kai in chu kí bu leng, hoán soat than jiⁿ bu iong)</i>	俗語有講(皆因自己無能，反說他人無用)
19	曰：受恩不報非君子，況惡報乎，俗云劉備借荊州，有借無還	<i>kong (Siu un put pò, hui kun chú, hong ok pò hon). Siók-gu u kong. Lau-pi chioh keng chiu, u chioh bo heng</i>	講(受恩不報非君子，況惡報乎)。俗語有講劉備借荊州有借無還
20	俗云無心放炮，玉石俱焚又云萬物傷殘，祇供一笑	<i>siók-gú u kóng, (bu sim hong phàu, giok sek ku hun), koh kong (ban bit siang chan, ti kiong it chhiàu).</i>	俗語有講(無心放炮，玉石俱焚)，又講(萬物傷殘，祇供一笑)

表7が示唆しているように、この本の訓言の前半は『意拾喻言』の訓言とほぼ同じである。

一方、言葉から見ると、この本と『Esop's Fables; Hok-Kien』はいずれも福建方言であるため、話し言葉の傾向や文体など、似ているところも多い。

ところが、この訳本は訓言を加訳するという特徴が見られる。

前述したように、訓言の前半は『意拾喻言』の訓言の発音をローマ字で標記したものであるが、後半は方言による説明文である。このような形がこの本の最大の特徴だとえる。

表8

番号	訓言
2	<i>siók-gú u kóng (ho í ui pò, hap iong chek kui) Sim-mih choe pò; hap eng chiu si pó.</i>
漢訳	俗語有講：(何以為寶，合用則貴) 甚物作寶；合用就是寶。
3	<i>siók-gú u kóng (kut hong siong chiàn gu jin tek-li) ba-hiòh kap o saⁿ chiⁿ, hoán-tng ho thó hái e lang tit-tioh.</i>
漢訳	俗語有講：(鵝蚌相纏，漁人得利) 鵝合蚌相爭，反-tng ³⁴⁾ 當時の福建廈門方言。「逆」、「反対」という意味で、漢字不明。讓討海的人得著。
4	<i>siók-gú u kóng (Tham-sim put tek, pún li ku sit) Tham-sim boe tit-tiòh, pún li lóng sit; chiu si.</i>
漢訳	俗語有講：(貪心不得，本利具失) 貪心不得著。本利皆失。就是。
6	<i>siók-gú u kóng (Sè-su jiong sam hun bok to jin kiong;ngo jüók chi ui iá) Sè-kàn e su tiòh niuⁿ saⁿ hun chhiat m-thang kè-kàu, si khoán chhut lang kiong, lán jiók chiu si ché i sù.</i>
漢訳	俗語有講：(世事讓三分，莫道人強我弱之謂也) 世間的事要讓三分不通(不能)計較，始看出人強咱弱就是這意思。

34) 當時の福建廈門方言。「逆」、「反対」という意味で、漢字不明。

7	<i>siók-gú u kóngkò (kò-kiâu tiu pán, tek beng su cháí) kio liáu au chiu hiat-kak hit e pán, pò chng siⁿ miáⁿ; siuⁿ tióh chin chai; chiu si ché i sù.</i>
漢訳	俗語有講：(過橋抽板，得命思財) 過橋了後就棄攞它的板，保留性命想著錢財。就是這意思。
8	<i>siók-gú u kóng (leng sit khai bi kiok, ból-sit chhiù bi hoan chek chhú chi ui iá) lèng khó chiáh hoan-hí be, m thang chiáh hoan ló png, chiu si ché i sù.</i>
漢訳	俗語有講：(寧食開眉粥莫食愁眉飯即此之謂也) 寧可吃飯稀泥，不能吃飯 <i>ló png</i> ³⁵⁾ ，就是這意思。
10	<i>siók-gú u kóng (Tai jin put koài siáu jin.) Tao lang m kap ha chian e lang sáⁿ chíⁿ; chiu si ché i sù</i>
漢訳	俗語有講：(大人不怪小人) 大人不和下賤的人相爭；就是這意思。
	略

この本は白話字（教会ローマ字）による漢訳イソップの新たな試みである。この試みは白話字そのものの発展にとどまらず、漢訳イソップの普及にも重要な役割を果たしていると考えられる。

一方、内容から見れば、この本は『意拾喻言』を底本として翻訳されたのは明らかなことであるが、その言葉に現れた『Esop's Fables : Hok-Kien』と一致する福建方言の特徴から、『Esop's Fables : Hok-Kien』を参考にした点があると推測できる。つまり、この本は『意拾喻言』を底本とした上、『Esop's Fables : Hok-Kien』を参考して翻訳された訳本の可能性が高いと考えられる。

なお、この本は独自の特徴を持っている。本文の下にある方言と英語の解釈リストは本の内容を理解するのに役立つ。それとともに、当時外国人宣教師向けの方言教科書であることも物語っている。

また、文末の訓言では、教会ローマで原文の読み方をそのまま標記した上で、その意味を説明する翻訳法は訓言そのものを強調することにとどまらず、読者がわかりやすくなるのもその目的である。以上に述べたように、ある意味では、この本は福建方言訳の継承者と言えよう。

三 福建方言訳の革新者：『long-sim Ju-Gian』（養心喻言）

この本は1893年に出版されたもので、その扉には「Kong-sū 19 ni 1893 E-MNG Pōe-būn-chai in」とある。扉の文字が示唆しているように、これは1893年（光緒19年）Pōe-būn-chai（佩文齋）によって出版されたものである。作者は不明であるが、内容から見れば、イソップ寓話に深く関連している第三作目の方言訳本である。

現在この本は所蔵不明であるが、『漢訳イソップ集』には影印版が収録されている。八つ折判の大きさで、扉（1ページ）、目次（2ページ）、本文（32ページ）、付録（8ページ）というのが全体の構成であり、全部で19話が収められている。この本に収録されているイソップ寓話の数は限られているが、いくつかの特徴が見られる。まず、この本は、出版の時間と場所が明示されているが、訳者だけは明確に示されていない。第二に、19話の中、第1話、第5話、第12話、第14話、第16話は挿絵がつけられている。こ



図4

35) 当時の福建廈門方言。漢字不明。

れは他の方言訳本では見られない特徴である。なお、この本は、イソップ寓話のみならず、他の寓話も収録されており、さらに、改作が多く、寓話の内容が大幅に増えている。

このほか、この本は福建方言で翻訳された3番目の訳本として、内容とともに、ロバート・トームの『意拾喩言』とサミュエル・ダイアとジョン・ストロナックが翻訳した『Esop's Fables; Hok-Kien』との関連も注目すべきだと考えている。

本節では、当時の宣教師が編纂した厦門方言の辞書を参考し、『long-sim Ju-Gian』の内容を整理した。

表 9

『long-sim Ju-Gian』		意拾喩言
原文	訳文	
1. Beh chiū ôe, m chiū bôe	? ³⁶⁾	
2. Kūn-chu chiá chhek, kūn-bèk chai hek	近朱者赤, 近墨者黒	
3. Tōa-chiòh iàh tiòh chiòh-á kēng	?	46. 鼠報恩
4. Ti-hóng tī ⁿ -giân bit-gú	堤防甜言蜜語	27. 鴉狐
5. Tham jī pīn jī khak	The character "covetous" has its form very like that of "poor" ³⁷⁾	5. 犬影
6. Un-ok iōng-siân	隱惡揚善	
7. Tiu ⁿ lô-bāng tī ⁿ tiòh ka-kī ê kha	丟羅網纏著自己的腳	
8. Lô-tek khah iá ⁿ chhiū	老竹笛與樹	
9. Chek-kok hōng-ki	積穀防飢	
10. Phiàn lāng chek phiàn kí, tò-tng hái ka-kī	騙人則騙己, 到頭害家己 (自己)	75. 牧童說謊
11. Tī-tu peh-chiū ⁿ thian-lô-pán	蜘蛛?	
12. Tāi-seng ê choe lô-bé	第先的最老尾	16. 龜兔
13. Siang-kha tàh siang-chūn	雙腳踏雙船	
14. It pò hoán it pò	一報還一報	55. 狐鶴相交
15. Lòk-tô khi chú-lāng	駱駝騎主人	
16. Ka hó bān-sū sēng	家和萬事興	38. 束木譬喻
17. Hong jit tó-béng	風日鬪猛	53. 日風相賭
18. Lé-to jīn-chà	?	
19. Jiu lēng sēng kong	柔能勝剛	

目次から見ると、この本における寓話のタイトルは他の二作及び『意拾喩言』のタイトルとは全く違うのであるが、いくつかの特徴が見られる。

① 訓言をタイトルとする現象

周知のように、イソップは教訓や処世訓・風刺などを内容とし、動物や他の事柄に託して語られる物語で、そのタイトルは登場人物や物語を概略したものが多かった。ところが、この本におけるタイトルの多くは直接に訓言をテーマとする革新的な形になっている。これは他の方言訳では見られない現象であるが、作者が教訓を一層強める意思が推測できる。

36) 当時の福建厦門方言。漢字はまだ不明。下同

37) 当時の福建厦門方言。漢字不明であるが、英語解釈がある。

② 諺、四字熟語の使用

他の方言訳と違って、この本における寓話のタイトルは話し言葉の傾向が見られず、中国の諺や四字熟語が頻繁に使われている。例えば、「近朱者赤、近墨者黒」、「甜言蜜語」、「隱惡揚善」、「一報還一報」、「家和萬事興」など、よく耳にする諺や四字熟語がテーマとして使われている。これは方言訳にとどまらず、漢訳イソップ史においても、革新的な翻訳法ともいえよう。

③ 方言表現

そもそも方言と標準語或いは各方言との間には多少の違いがあるため、方言表現の特徴は、次のような例が挙げられる。例えば、「自己」に対し、「家己」という。他に、「最前」に対し「第先」、「末尾」に対し「老尾」、「腳踏兩隻船」に対し「雙腳踏雙船」などの例があげられる。

次に、内容にもとづきつつ、『意拾喩言』及び他の方言訳と比較してみる。

この本は前の二作と違い、19話の中、『意拾喩言』に属する寓話があれば、それ以外のイソップ寓話もある。さらに、イソップ以外の寓話も収録されている。

19話の中、第3話、第4話、第5話、第10話、第12話、第14話、第16話、第17話はそれぞれ『意拾喩言』から出ている可能性が高い。そして、第1話は『意拾喩言』には載せられていないが、確かにイソップ寓話であることから、この本は『意拾喩言』以外のイソップ寓話も収録していることがわかる。また、第2話、第6話、第11話のような、『意拾喩言』にも他のイソップ寓話集にも全くない寓話があるが、それは訳者自身によって作られた寓話なのか、イソップ寓話以外の他の寓話から翻訳したのかは興味深い課題である。

次に、この『long-sim Ju-Gian』と『意拾喩言』に共通する8話について分析してみよう。

『意拾喩言』の内容と比べると、『long-sim Ju-Gian』におけるこの8話が改作したところは多く、文体、登場人物、物語の筋、物語が伝わった教訓までそれぞれ違っている。つまり、訳者自身が加えて翻訳した新たな寓話も出てくるのである。

① 文体の変化

上記に述べたように、この『long-sim Ju-Gian』における寓話のタイトルと訓言は中国の諺や四字熟語を用いているので、『意拾喩言』の古文体に似ているが、本文に入ると、完全に別風景である。周知のように、『意拾喩言』は「文言」（文言白話混交体³⁸⁾）で、簡潔な言い方や書き言葉がその特徴であるが、それに対し、『long-sim Ju-Gian』は話し言葉（口語体）である。例えば、第5話の「*Tham jī pîn jī khak*」を例として見てみよう。

U chit chiah káu, kā chit-tè bah, tùi kiō nih kè. Kio-ē ē chui chheng-chheng tiaⁿ-tiaⁿ só-í I ē iaⁿ chio lōh chui-tōe, án-ni khòⁿ-kiⁿ chui-lāi iah u chit chiah káu, kā chit tè bah. I chiū beh chhiūⁿ chui-lāi hit chiah káu só kā ē bah, káu tio-lōh-khi, m-tāt-nā chhiūⁿ bō, liān i chhui nih hit tè sòa tím-lōh chui-tōe.³⁹⁾

38) 内田慶市『漢訳イソップ集』（ユニウス、2014年）20頁

39) 『long-sim Ju-Gian』（養心喩言）1893年 9頁

有一隻狗，咬一塊肉，隨橋里過。橋下的水清清靜靜，所以它的影照落水底。án-ni⁴⁰⁾ 看見水里也有一隻狗，咬一塊肉。它就要搶水裏那隻狗所咬的肉，投落去，不值搶無，連它嘴裏那塊都落水底。⁴¹⁾

昔有犬過橋，其口咬有肉一塊，忽見橋下有犬口咬肉，不知其為影也。遂（才含）口之肉而奔奪之。幾乎淹死。其真肉已隨流水去矣。欲貪其假失卻其真，世人多有類此。⁴²⁾

②訓言の変化

ここにいう「訓言の変化」とは物語全体の筋は変わらないが、訓言だけ改作したことをいう。例えば、第14話の「一報還一報」（狐鶴相交）と第16話の「家和萬事興」（束木譬喻）の訓言を見てみよう。

第14話の「一報還一報」の訓言は「*Siòk-gú kóng, “Hài-jîn chek hā i-kí,tò-tng hāi ka-kí.”*⁴³⁾（俗語講，害人則害己，到頭害自己）であるが、それに対し、『意拾喩言』の狐鶴相交の訓言は「俗云：惡人自有惡人磨，此之謂也。」である。「惡人自有惡人磨，此之謂也。」と「害人則害己，到頭害自己」を比べると、立場が違う。つまり、第三者の視点立場で、悪人が必ず罰を受けるはずだという言い伝えが、「害人則害己，到頭害自己」の場合は第一人者の立場で、人に害を及ぼせば自らも害するというのを強調したのである。

また、第16話の「家和萬事興」の訓言は「*Siòk-gú kóng, “mng phòà káu nng jip-lài.”*⁴⁴⁾（俗語講，門破狗竄進來。）であるが、『意拾喩言』の「束木譬喻」では、「俗云，唇齒相依，連則萬無一失，若分之，唇亡則齒寒，無有不失也。慎之，如以一國而論，各據一方者鮮有不敗，反不如合力相連之為美也」といっている。同じ集団意識を強調する訓話であるが、「束木譬喻」は唇と歯を例とし、国の興亡とのかかわりを伝えている。それに対し、「家和萬事興」の場合は「国」ではなく、「家」から説明している。

以上述べたように、訓言が伝わる意味はさほど変わらないのであるが、視点や立場がそれぞれ違うことから、『long-sim Ju-Gian』は『意拾喩言』に比べて第三者の立場から第一人者の立場に移向した傾向が見られる。

③登場人物や物語の筋の変化

訓言の改作にとどまらず、登場人物や物語の筋が変わった場合もある。『意拾喩言』における「鼠報恩」は、昔ライオンに捕まって命乞いをして見逃してもらったネズミが恩返しとして網を噛み破き網にかかったライオンを助けるという物語である。

『意拾喩言』における「鼠報恩」の登場人物はライオンとネズミだけで、ストーリーも極簡単であるが、『long-sim Ju-Gian』では、登場人物や物語の筋が大きく違っている。まず、登場人物はライ

40) 当時の福建廈門方言。英語の「thus」という意味で日本の「その為」に当たる方言語彙である。

41) 筆者による漢訳文。（『廈門音の辞典』を参照とする）

42) 『long-sim Ju-Gian』（養心喩言）1893年 23頁

43) 『long-sim Ju-Gian』（養心喩言）1893年 23頁

44) 『long-sim Ju-Gian』（養心喩言）1893年 27頁

オンとネズミから「百獣」という複数に変わった。つまり、網にかかったライオンを助けるために、いろいろな動物がやってきたが、助けられなかった。結局、目立たず、見下されていた小さなネズミだけがライオンを助けたという物語になっている。

ただ、第4話、第12話、第17話のように『意拾諭言』の内容と一致している寓話もあるので、『long-sim Ju-Gian』におけるこの8篇の寓話が『意拾諭言』に関わっているのが事実である。そのため、ある意味で、『long-sim Ju-Gian』は『意拾諭言』の継承者であり、また方言訳の革新者ともいえる。

次に、『意拾諭言』以外のイソップ寓話である第1話の「*Beh chiū ôe, m chiū bōe*」について考察してみる。

実は、この第1話はイソップ寓話の中にもよく知られる「カラスと水差し」という話であるが、『意拾諭言』には収録されていない作品の一つである。そこで、訳者がどの原本から、どのようにこの寓話を翻訳したのかが問題になる。漢訳イソップの歴史を振り返ってみると、「カラスと水差し」の話が最初に翻訳し掲載されたのは1878年に出版された中田敬義の『北京官話伊蘇普諭言』であり、その次は1910年に出版された『伊氏寓言選譯』である。出版時期から考えてみると、1893年に登場した『北京官話伊蘇普諭言』を参考した可能性がある。ところが、北京官話から厦門方言への翻訳であっても、言葉は多く変わったであろう。さらに、訳者が英語版によって翻訳した可能性もあるし、イソップ寓話に対する印象に基づく、訳者自身の改作である可能性もあるので、その原本については、さらに検討が必要であろう。

また、この『long-sim Ju-Gian』は第1話、第5話、第12話、第14話、第16話にそれぞれ挿絵をつけている。これは漢訳イソップにおいても珍しいものであり、唯一の挿絵付きの方言訳である。他の挿絵本に比べると、この本における挿絵の質、位置の設定など独自の特徴が見られる。

まず、漢訳イソップにおける最初の挿絵本である『伊娑菩諭言』（上海施医院蔵版）は絵を寓話の中に挿入するのではなく、新しいページを作って独立させている。さらに、各絵の上にそれに対応する寓話のタイトルを書いてある。

それに対し、1903年に出版された『伊索寓言』では、挿絵を文の真ん中に挿入している。これに対し、この『long-sim Ju-Gian』の挿絵はタイトルの上に掲げている。

『伊娑菩諭言』（上海施医院蔵版）及び『伊索寓言』の挿絵と比べると、『long-sim Ju-Gian』の挿絵の挿入位置は、読者が寓話の内容をよりよく理解するのに役立つであろう。まず、それは別のページではなく、寓話の最初に置かれている。読者は最初に絵を観察し、よく理解し印象を持ち、それから寓話の文章を読み始める。そうすると、読者の興味を引き付け、そして物語に対する読者の記憶を深めるのを助ける。それに、このようなイラスト方法は絵と寓話を密接に結びつけるのみならず、画面を綺麗に整えている。また、挿絵の質とから見ると、『long-sim Ju-Gian』における挿絵は単純な線で寓話に含まれるキャラクターと行動をスケッチしている。挿絵は簡潔ではっきりしていて、画面も綺麗である。これは著者が心を込めて作ったものであろう。

その他、他の方言訳と違って、この本の後ろには8ページの付録が付いている。前の2ページは白話字のアルファベット（ローマ字）であるが、3ページは次のようなローマ字アルファベットで記された短い文である。

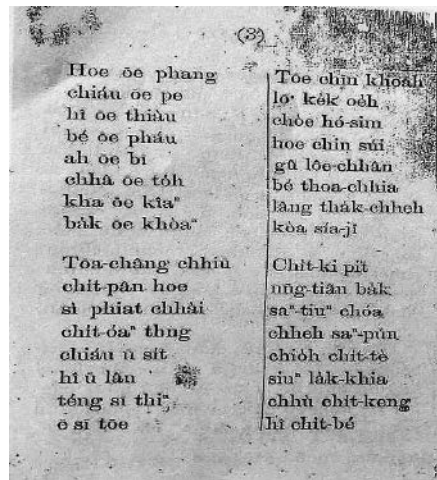


図 5

表10

原文	漢訳文
<i>Hoe ôe phang</i>	花愛香
<i>chiáu ôe pe</i>	鳥愛飛
<i>hî ôe thiâu</i>	魚愛跳
<i>bé ôe pháu</i>	馬愛跑
<i>ah ôe bí</i>	鴨愛米
<i>chhâ ôe tóh</i>	柴愛著
<i>kha ôe kía</i> ⁿ	腳愛行
<i>bák ôe khóa</i> ⁿ	目愛看

以上により、この本は漢訳イソップの方言訳であるのみならず、白話字で表記する福建方言を学ぶ教科書であることが明らかになった。

この本は方言訳における新たな試みである。この試みは漢訳イソップの普及に重要な役割を果たしたと考えられる。

一方、内容から見れば、この本は『意拾諭言』のみならず、他のイソップ寓話及びイソップ寓話以外の物語、作者自身の改作したものを収録しており、方言訳の集大成といえる。「悪を避け、善を行う」という訓言の多いこの本は正にその書名が示唆しているように、「心を養う」ことを目的としたのであろう。

また、この本は中国の諺、四字熟語が用いられ、内容が改作され、挿絵がつけられている。また、8ページの付録はこの本が方言学習者向けの方言教科書であることを示している。

このように、ある意味で、この本は漢訳イソップにおける優れた作品であり、方言訳の革新者ともいえよう。

おわりに

『Esop's Fables ; Hok-Kien』から『Aesop's Fables in the Amoy vernacular』へ、さらに『long-sim Ju-Gian』に至る。漢訳イソップにおける方言訳は、継続的な継承と開発のプロセスであることが分かる。まず、『Esop's Fables ; Hok-Kien』は方言訳の先駆者として、白話字（教会ローマ字）でイソップを方言に翻訳する先例となり、後の方言訳に深い影響を与えたことは言うまでもないであろう。一方、その内容は底本である『意拾諭言』とほぼ一致し、『意拾諭言』の深い影響を受けたとはいえ、方言の表現も多く見られ、独特な特徴を持つすぐれた方言訳本の一つである。そのため、『Esop's Fables ; Hok-Kien』は漢訳イソップの方言訳史において、重要な役割を果たしたと考えられる。

次に登場した『Aesop's Fables in the Amoy vernacular』は、前作の『Esop's Fables ; Hok-Kien』が

出版された42年後に現れた、方言訳の新たな試みであった。内容的には、この本は『意拾喩言』を底本とするのみならず、『Esop's Fables; Hok-Kien』を参照したことも明らかにした。しかし、『意拾喩言』の81話を完訳した『Esop's Fables; Hok-Kien』に比べると、この本は完備さという点では劣るが、言葉や寓話の構成など、独特な特徴が見られる。特に、訓言部分では、原文をそのまま音訳してから、方言で説明するという翻訳法は訓言そのものを強調するにとどまらず、読者にわかりやすくすることもその目的であった。また本文の下にある方言と英語の解釈リストは本の内容を理解するのに役立つとともに、当時外国人宣教師向けの方言教科書であることを物語っている。ある意味で、漢訳イソップの方言訳が宣教と文化の伝播という目的から宣教師の語学教科書へと転換する傾向はこの方言訳に始まるのである。

方言訳の革新者である『long-sim Ju-Gian』は『意拾喩言』のみならず、他のイソップ寓話及びイソップ寓話以外の物語を収録しており、方言訳の集大成である。そして、言葉から見れば、分かりやすく素朴な方言表現が多く見られる一方、四字熟語や諺などの古文も使われている。また、訓言をそのままタイトルとし、精緻で綺麗な挿絵をつけている。さらに、付録はこの本が方言学習者向けの方言教科書であることを示している。

以上述べたように、内容的には、漢訳イソップにおける方言訳は『意拾喩言』と深い関連を持つテキストから、少しずつ『意拾喩言』を脱却するテキストに変わっていく傾向がある。また、目的から言えば、方言訳本は最初の宣教及び文化の伝播という目的から宣教師向けの方言教科書という目的に変わる傾向が見られる。また、言葉から見れば、「文言」(文言白話混交体)から理解しやすい白話へ変わり、イソップが地方に普及することを促進したといえよう。